目黒稲門会 EXPRESS

★★★★★★2005年3月発行／第18号★★★★★★

発行人：加藤榮護　編集長：藤岡長世　事務局：〒152-0002目黒区目黒本町6-21-14　TEL:03-5723-8156

2005年新年会、盛大に開催

去る1月10日、恵比寿ウェスティンホテルにおいて新年会を催しました。

新春の講演は元・東京都副知事であり我が稲門会の初代会長であられた眞仁田勉氏に「東京の歩み・明治初期を中心に」と題し、目黒を中心とした江戸から東京にかけてのお話を伺いました。目黒の各所に残る地名の由来、繁華街の歴史など興味深い話題が次々と出て、皆、身近な話題のせいもあり非常に楽しく、さらにお聞きしたい思いを残しつつ感謝の拍手で終了いたしました。

続く、懇親会では美味しいご馳走に舌鼓をうちつつ、思い思いに歓談し、楽しい時を過ごしました。

そして締めは、やはり校歌斉唱。伏見会員のリードで皆肩を組み大きな声で本年最初の『都の西北』を熱唱しました。
今年も、みなさん元気で楽しく活動してまいりましょう。

〈出席者〉

浅海敏之、阿部雅子（ご家族）、阿部喜久雄、荒瀬修一郎
有山勇次郎、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤源喜、伊藤德男
伊藤　悠、岩崎正夫、海口昭治、大竹一子、大野春子（ご家族）
大野利幸、大山高明、小野　満、加藤榮護、加藤玲子（ご家族）
岸　猛弘、木村昭一、紀本直幸、桑野祐光、郡山弘文、桜井輝隆
島田久家、関　和平、田島順一郎、千野逸平、土川俊雄、外岡　明
外岡ルリ子（ご家族）、中上美代子、中西千可子、難波秀哉
林田雅敏、樋口定広、土方正巳、藤岡長世、伏見和則、星野聡史
松岡雅俊、松戸　猛、眞仁田勉、水野弘文、村上　満、森家一三
保井　正、梁瀬陽太郎、八幡和三郎、八幡禎子（ご家族）
横山　大、吉田博行、渡邊三郎、渡邊道子（ご家族）、手塚仁雄

東京都23区支部大会、開催

2月16日（水）、リーガロイヤルホテル東京において東京都23区支部大会が開催されました。今回は中曽根元総理大臣に「静かな革命・日本の転換」のテーマで講演いただきました。ご高齢にもかかわらず張りのある声で日本のトップ経験者から見た小泉政治・日本の将来を語っていただきました。会場は白井総長はじめ、東京23区・三多摩各稲門会会員でぎっしり。熱気あふれる講演でした。

懇親会は、千代田稲門会所属の西脇さん率いるボニージャックスの校歌コーラスで開宴。珍しい白井総長の歌声も聞かれました。後半、各区稲門会ごとに壇上で記念撮影。校歌斉唱・エールののち散会しました。

〈出席者〉

加藤榮護、保井　正、外岡　明、伊藤源喜、大竹一子、
中上美代子、中西千可子、林田雅敏、樋口定廣、大橋ヒデ子、
奥泉愛子、桑野祐光、水野弘文、針谷紀子、海沼美智子、
柴崎周弥、岩崎正夫、市瀬一江、井村正陽、岸　猛弘

会員の消息

新入会

千野逸平：昭和30年・商（目黒区中根・麻雀、ゴルフ）

訃報

中島勝也氏（理工学部名誉教授）平成17年3月2日・享年79才
謹んでご冥福をお祈りいたします。

〔空　往　満　帰〕

―外岡茂十郎の軌跡⑤―

外　岡　　明（26年理工・電）

⑬　部長・監督の退任要求

昭和38年秋のリーグ戦が法政の優勝で幕を閉じて1ヶ月後、12月5日稲門倶楽部（早大野球部OB会）の幹事会・総会で、6シーズン連続Bクラスを続けている野球部の不振打開、汚名挽回を図るため、「外岡部長・石井（連蔵）監督の勇退を勧告する」という決議がなされた。翌6日の新聞各紙は、これを大きく報道した。

（この頃の東京六大学野球は、現在では想像できぬほど人気があり、大手新聞・スポーツ紙とも、この動向を大きく扱っていた。）

そして、それからは、歴史ある早稲田大学野球部の内紛として、毎日の様に、「退任か」「留任か」の活字が紙上に踊った。

「連続Bクラスの責任はとるべきだ。」「気分一新のためにも応じるべきだ。」という賛成意見とそれに対し、

「チーム不振の責任を部長や監督に転嫁することは、アマチュアの採るべき態度ではない。」「OB会が退陣を求めるのは、行き過ぎだ。」という反対意見の両論である。

『監督の任命権は部長にあり、部長の任命権は大学（体育協議会）』にあるのだが…。

そして、10日後の12月16日の各紙は「外岡部長勇退勧告を蹴る」と報じた。

前日、外岡は戸塚の野球部合宿「安部寮」で記者会見を行い、「私は辞めないし、石井監督も勇退させない。」として次の声明文を発表した。

『早稲田大学野球部が、部員一同の最善の努力にも拘らず、数シーズンに亘って不振を続け、先輩を始め、一般ファンの期待に沿うことが出来なかったことは、まことに遺憾であり、大学に対しても申し訳なく思う。

ついては、稲門クラブから部長辞任の勧告があったが、これも部を強くしたいとの念願の発露とみるべきであり、先輩諸氏の熱意に対しては敬意を表したい。

しかし、野球部は他の体育各部とともに、その教育的使命を重視して認められた大学の機構の一環であり、部長も学内の諸手続きを経て大学から委嘱された公職である。そこで部長の進退は、大学との関係に於いて私の判断にもとずいて決定すべき問題であって、外部の人々の指示に従って軽々に対処すべき筋合いのものではない。ことに野球部の教育機構としての自主性を保持する上からも、また将来に悪い先例を残さないためにも、外部の圧力によってやめたという印象を与えることは、絶対に避けるべきものだと考える。

もっとも諸先輩の忠言は謹んで反省の資に供したい』というものである。

この声明文に対し、稲門倶楽部では《強化対策委員会》を開き、「これは決して稲門倶楽部に対する挑戦ではない。むしろ誠意ある態度である」との意見の一致を見て、静観することとなった。

また、新聞各紙に掲載された諸評も、「表現は婉曲ではあるが、先輩を立てながらも、教育の一環としての野球部については、部長である自分の責任で判断すべきこと、という明快な論理で、筋を通そうとする構えが窺がえる。」と、概ね好意的評価であった。

そして、内紛と騒がれたこの問題は、解決に向かって前進した。

そうした中にあって、「不振の責任は、監督の私にあるが、外部の圧力に屈しての辞任はしない。」と強い意志を持っていた石井監督は、自分の意志は通ったと判断したのか、12月23日自発的に辞任した。

外岡は、極力遺留に努めたが、石井監督の決意は堅く、止むなく辞表を受理した。

そして後任監督として、石井監督の推薦する、石井藤吉郎氏に白羽の矢を立て折衝を始めた。

石井氏は、水戸商―早大―大昭和製紙へと進み、水戸商監督を経て、水戸市大洗町で旅館を経営していた。

（大13生　昭18年（法）入学、19年入隊、敗戦後シベリアに抑留され昭22年帰国、昭25年春4.4割で首位打者となる

戦後の早大野球部の黄金時代を作った。昭和26年卒）

しかし「3年間 野球にブランクがあり、旅館経営が多忙」ということで、飛田さん、石井（連）氏、外岡の度重なる要請も なかなか捗らなかったが、翌39年1月11日やっと石井監督就任の発表にこぎつけた。

これで1ヶ月余に亘った監督問題は解決し、新たな出発が始まった。

ゴルフの話

会長　加藤榮護

本来ゴルフの話題を採り上げるのは、ゴルフをしない人にとっては全然興味の無い話であり、又エチケットを欠いた行為であるかもしれないが、今回はその禁をあえてやぶってみようと思う。

小生がゴルフを始めたのは、昭和53年くらいの時ときだったから47歳、当時としては大変遅かった筈だ。コンピュータのシステムエンジニアとしての仕事が非常に忙しい職種であった関係から、一般の人のように一日をかけて、高い金と暇を費やすような身分には恵まれていなかった。しかし偶々、日米コンピュータ会議がサンフランシスコで開かれ、そこに出席した後、ニューヨークに移動し、アメリカ駐在のU君が小生をゴルフに招待てくれた。アメリカでのゴルフ料金はパブリックコースだと、東京近郊でやるより一桁安い料金で出来る。ハーフをまわるのがやっとだったが、虜になった。人が面白がっているものは、何でも面白いものだと思った。

さて、小生は昭和61年の初めに結核と診断され、8ヶ月の入院とその年一杯の投薬、安静を強いられた。翌年の5月、会社の営業部門中心のゴルフコンペが開かれ、そこで小生はいきなり優勝してしまい、「加藤さんは昨年休んでいたが、本当はゴルフの練習をやっていたに違いない、そう言えば顔色も黒くなっていた」等とさんざん冷やかされたものだった。勝因を挙げれば、「冷静にプレーした」の一言に尽きる。何しろ、1年間の療養のあと、1ラウンドをまともに廻れる自信は無かった。とにかく落伍しないように、スコアを気にせず、体の力を抜きゆっくりと回っただけだった。そうしたら、ボールが素直にまっすぐに飛んだのだ。後日、ゴルフにまつわる単行本に出会って、成る程と思った。ここにその話を紹介したい。

ある野原で蜘蛛と毒百足（むかで）が出会った。　蜘蛛は一瞬このままでは毒百足に食われてしまうと思い一計を案じた。

「百足さん、百足さん、貴方は百本もある足を良く順序正しく動かして、実に優雅に歩いていらっしゃいますね。　私なんかたった8本しかないのにそんなに優雅にはとても歩けません。」

毒百足は一瞬誇らしげ喜んでいたが、その後一歩も歩くことが出来なくなり、遂に死んでしまった。

ゴルフのスイングには、チェックポイントが100位あるそうだ。これを残らずチェックしていたら、時間ばかり掛かるし最後には体が硬くなって一番打ってはいけないタイミングでショットすることになる。　小生が優勝したときは、まさに無心であったことが勝因であったのだろう。その後、ある先輩とゴルフを楽しんだとき、ラウンド83と言う小生にとっては、空前絶後のスコアを記録したことがある。そのときは「毎ホールをボギーで回れば、中に何回かはパーがとれる筈だ。とすれば、90台を切るのは当たり前の話だ。」と考えついた。しかし、その後90は勿論、最近は100を切るのも困難になってきた。　この頃は、体力だけでなく、精神力も衰えてきたと自戒し、体力気力の充実に専念している次第である。

リレー随想

早稲田大学写真部卒業

横山　大（31年政経）

昭和25年4月入学式当日早大正門前でバスを下車した途端に、角帽でカメラを肩に掛けた学生に手渡された一枚のチラシ、目を通すと何と写真部入部勧誘状、見た途端、あれこんな部があるのだと。たまたま浪人中に写真の手解きを受けた私は、驚きと喜びに政経学部の入学式前に直ちに入部申込をしてしまったのでした。今50数年経って回想するに、この瞬間が私の運命を決定付けてしまったのでした。

入学後間もなく新入部員歓迎撮影会が催され、10数名の新入生が50名以上の先輩部員と一緒に、大学周辺と特に大隈講堂・大隈庭園辺りをバックに、当時映画雑誌の女優写真を専門に撮っていた秋山庄太郎、稲村隆正、黒川清司等女性作家の大先輩の指導で、角梨江子・桂木洋子他数名の女優をモデルに撮影会が行われ大変楽しい一日でした。後日その作品の審査会があり、200点近くの中から何と私の作品が1位と3位という驚きの結果が発表されたのでした。凄い新人が入部したと大変持て囃されてつい有頂天になったのが、写真は単に趣味・道楽の道から逸脱して夢中になる元になってしまったのでした。

この年の秋に早慶ダンス競技会が雅叙園観光ホテル4階のレインボーホール（当時はアメリカ駐留軍の専用ホール）であり、先輩から助手を指名されホールの天井に近いライトボックスからの記録写真を撮るフラッシュバルブ（発光電球・当時は未だストロボはなかった）の交換操作をさせられたのでしたが、何せあの華やかな会場を撮るのも初めてであった、ダンスのダの字も知らない私は、その雰囲気に呑まれて助手の役割も満足に務まらなかった記憶が未だに鮮明に残っております。ダンスの写真は自分自身が踊れないと撮影も出来ぬことを実感し、一年の学期末試験終了後、一念発起五反田の日比谷文化学院社交ダンス部で修得し始めたのでした。勿論これも夢中になり一年余で助教の資格を取り、その後早大社交ダンス部の助手を務めたりし、大変楽しい時代もありました。

当時戦後まだ5年程、ろくに物もない時代、特に写真フィルムは品薄で高く、白黒フィルム1本200～300円（大学の授業料、年1万～1万5千円の頃）位して、写真道楽で月に4～5千円位かかる始末で、到底アルバイトをしなければならない私でした。偶然近くの写真材料店で白黒DPEのプリントの下請の口があり引受けたのですが、それがまた写真ブームの走りで、ものすごく忙しくなり、徹夜で作業をしては大学へ通ったあり様。当時で月に7、8千円から1万円近くの収入になったものでした。授業は勿論半分以上居眠りあるいは熟睡し、鼾をかき仲間に起こされる始末で、3年半近くも写真作品の撮影アルバイト、ダンス練習、最後に授業と、我ながら八面六臂の活躍をしたつもりで、その上不規則な食事を続けてしまい、当然身体を酷使し過ぎた生活でした。

写真ブームの走りの頃でも、当時角帽にカメラを肩にしてると大変モテた時代で、女性モデルにも結構出会えたり、また縁あって舞台写真の撮影にも道が拓け、花柳幸太郎、先代水谷八重子等、新派の舞台や藤原義江歌劇団のオペラの舞台等、一般では撮影不可能な分野にもカメラを向けることが出来ました。

毎年春に早慶写真展、秋に東京六大学写真展として、日本橋三越、銀座松阪屋等で写真展を開催して競い合ったものでした。勿論私はダンス競技会の写真、舞台写真等でその責を果たしたのですが、学生としては比較的変わった写真を出展しており好評を博しておりました。

そうこうする中4年生になり、そろそろ就職試験の準備に入った頃、若干の単位不足で夏期講座の最中、忘れもしない昭和28年7月26日夜暗室作業中に咳き込み、突然大喀血に襲われ、まさかと思いつつも口を押えて近所の高崎医院に駆け込み診療を受けた結果、間違いなく肺浸潤と診断されて、直ちに絶対安静を命ぜられ、パスナトリエウムの服用とストレプトマイシンの注射、加えて充分な栄養を摂れと指示をされたのでした。一時は私の運命も終りかなという絶望感にも襲われ、もうお先も真っ暗な思いにも駆られました。

しかし家族の協力と結核予防法以上の薬の使用に加え、懸命な療養生活の結果、ちょうど一年程、翌昭和29年9月には社会復帰を果たすことが出来、借金を背負ってのアルバイトの復活と、残りの専門科目11、44単位を時間を掛けて取ることにし、休学せずに大学にもその旨申し入れ、本来なら29年3月卒業を31年10月迄の単位取得に時間を掛けた次第です。勿論サラリーマンは断念せざるを得ず、必然的に写真の商売に入っていった訳でした。

以上、私の学生時代の一端を回顧してまいりましたが、結果として政経学部政治学科卒業ではなく、写真部卒業という所以でございます。

写真営業を通して多くの良き友人知己を得た事、また数々の経験をした事に感謝をし、今日に至りましたが、今や世はデジタル写真時代となり、少子化等含めて写真業界が厳しさに直面した時、この道に入った事が果たして如何なものであったかと、この人生を改めて反省している処です。次回は井村正陽旅行部会長にお願い致します。

目黒稲門会ホームページ便り（その2）

HPの楽しみ方、第2回目です。前回は本の目次に相当するトップページの出し方でしたが、今回はそのページの説明をいたしましょう。まず、左側に縦に並んでいるのがこのHPの基礎的なコンテンツ（内容）です。会長logbookには加藤会長が毎月エッセイを寄せてくださいます。他区の愛読者もいらっしゃるようで、これからも楽しみです。全体活動予定のところでは本年度の活動予定とともに、左上の活動報告blogによって活動の内容が解るようになっています。リンクのページでは目黒医師会・歯科医師会休日診療のお知らせもすぐ見ることができます

トップページ右上部の箱の中は役員会議事録などトピックスがほとんどです。「What's new」では最新の更新の内容が解ります。この箱の下には各部会別のスケジュール、お知らせが載っています。

どれもご覧になりたい場所の文字の上で、マウスを左クリックするだけでそのページが開きます。お試しください。

広報HP担当　中西千可子

meguro-tomonkai@nifty.com

http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/

各　部　会　か　ら　の　報　告

囲碁部会

第4回オール早稲田囲碁祭Aクラス優勝（日本棋院・2004年9月26日）

左から優勝の高橋栄一、桑野祐光、八幡和三郎、荒瀬修一郎、古川欽一の各氏
（神楽坂・鳥茶屋）

三田会対抗戦

第2回　目黒稲門会対目黒三田会懇親囲碁大会が、2月11日（祝日・金）、目黒稲門会の主催で開催されました。目黒稲門会11名、目黒三田会10名の参加を得て熱戦が繰り広げられ、Aクラス　八幡和三郎氏（W S33商）、Bクラス　牧野氏（K）、Cクラス　郡山弘文氏（W S27商）、Dクラス　横山氏（K）、Eクラス　倉田氏（K）が各優勝されました。懇親会は静安で石川智子さん（W H7文）も加わり、アノ静安で早稲田校歌、慶応塾歌も飛び出し、荒瀬修一郎氏（W S28商）による「紺碧の空」となごやかなムードで全員大満足で打ち上げました。

カラオケ部会

■第39回　4月8日（第二金曜日）午後4時00分～午後7時00分
【場所】「コートダジュール学芸大学店」
目黒区鷹番2－16－18　Kビル　B1F
TEL:03（5773）9488　FAX:03（5773）9478
【会費】　男性　¥3,000　　女性　¥1,000

部会長　海　口　　昭　治
TEL:03-3710-5761 FAX:03-3710-5762

麻雀部会

2月13日（日）定例麻雀大会、終了後新年会
目黒稲門会麻雀部会は16名の参加を得て、2月13日（日）第22回麻雀大会を地元「西小山クラブ」で開催しました。今回は病気や海外旅行などのため不参加の部員が3名いたので、メンバーをそろえるのに大変苦労しました。最近、麻雀は呆け防止やストレス解消に役立つゲームとして見直されてきました。少しでも麻雀に興味のある会員の新規加入を歓迎します。

なお、次回の麻雀大会は5月を予定しております。

部会長　土　方　正　巳

旅行部会

MOA美術館と伊東温泉の旅顛末記

平成16年12月5日は前日からの強風（東京で最大40メートル）が吹き荒れるとともに、12月としては気象台始まって以来の夏日（日中25℃を超える）となり、異常な日であった。

朝7時半のTVニュースでは、東海道線が不通となっており、大幅な遅れを放送していた。乗る予定の横浜発11:58分のアクティーには間があるので、十分復旧するだろうとタカをくくっておりました。
（品川駅にて）1号車に乗るとの約束でしたので、横浜側の階段を下りたところから状況は一変しました。ホームは人で溢れ、保井さんがどうしたものかという顔で待っていました。東海道線はまだ細々しか復旧しておらず、朝の超満員状態のホームでありました。そこへ40分遅れの列車が入線しますが、この後しばらくは小田原・熱海方面は来ないのでなるべくこの列車に乗って欲しいとのこと。アナウンスがあって、さらに15分ほど後に超満タンの列車が到着。ホームに溢れんばかりの人たち全員を乗せ超々満員で出発してゆきました。我々3名は横浜から乗車予定の8名が乗ることは難しいと判断し、この満員電車を見送りました。

今後どうすべきかと思案していると、2～3分もたたないうちにアナウンスがあり、品川発小田原行き臨時列車が5分後に出るとのこと。これに乗ることを決定し、臨時列車に乗ると、ガラガラ状態。BOX2つ（8人分）を確保、携帯にて加藤会長に連絡し、臨時列車の2号車との確認をして一安心。横浜までの約25分を快適に過ごしました。

横浜駅に到着し、ドアのところで待ち構えておりましたが、会長はじめ誰も乗ってきません。再度、加藤会長携帯へTELすると、8人全員2号車に乗ったとのことですが、超満員列車とのお言葉。1本前の普通列車に乗り込んだのでおられたのでした。「すぐにその列車を下りて下さい」と連絡すると、もう戸塚駅を過ぎるとのこと、それでは次の大船で合流と連絡。大船駅で会長はじめ8名がやれやれという顔で乗り込んできました。やっとMOA美術館行きの11名が勢揃い。

その後は順調に走り、熱海に到着。バス10分ほどでMOA美術館着。約1時間30分を美術館で「国宝色絵藤花文茶釜」や「重要文化財」、「近代日本の木版画展」の鑑賞。しばし芸術に親しむ時を過ごしました。16:40頃、宿泊のホテル暖香園到着。待望の温泉に疲れを癒す。直接来場の6名も17:30頃までに全員無事到着。

（大宴会）18:15頃より参加者17名全員による大宴会。さしみ大皿盛り、あわび踊り焼きをはじめ、12種の大ご馳走に飲み放題ということで大いに盛り上がる。伊藤悠会員も参加、業務報告に皆大きく頷く。約2時間楽しい伊東温泉の夜を過ごしました。宴会の後はカラオケ組と麻雀組に分かれ、さらに伊東温泉を楽しみました。お湯に何度も入り、長い1日は無事終りました。翌6日は7時より6階眺めのよいレストランで朝食後、自由解散。楽しく無事に終りました。

参加者名簿（順不同）加藤会長・横山副会長・保井幹事・外岡幹事・大野副会長夫妻・郡山幹事夫妻・海口幹事・森家幹事・岩崎事務局長・林田監事・伊藤会員・桑野会員・紀本会員・井村副会長夫妻（以上17名）

旅行部会長　井　村　正　陽

「テニス同好の志」手を挙げて下さい!

爽やかな風薫るビルの屋上でテニスを楽しみませんか。

現在、年2回（春・秋）程度、5～6名でゲームを楽しんでいますが、過度の疲労にならぬよう交代でゲームをするため、更に2、3名の方のご参加をお待ちしています。プレー後は、クラブ内のラウンジで昼食を共にしながら談笑の時を持ちます。

場所：リバティヒルクラブ　（屋上コート1面使用）
目黒区八雲3－26－6　TEL　03－5731－5731
日時：4月20日（水）9:55　フロント前ロビー集合
テニスゲーム：10:00～13、00（3時間）
昼食・懇談：13:00～15:00（2時間）
費用：1人3,000円程度（昼食含む）
（連絡先：外岡3724-1395、保井3792-9138）